

かすみがうら市公共交通に関する市民アンケート調査

公共交通を必要としている人についての集計結果

市民アンケートの実施概要

かすみがうら市公共交通に関する市民アンケート調査は、市民の日常の移動実態や公共交通全般に対するニーズを把握するため、市内在住の 3,000 世帯を対象に、郵送配布・郵送回収にて実施した。加えて、市のホームページにてアンケート票を掲載し、回答を募集した。

その結果、1,744 票の回答があった。郵送配布分の世帯回収率は 30.7%、アンケート票回収率は 26.4%であった。

表 1.1 市民アンケートの概要

項目	内容
実施時期	令和 2 年 7 月 9 日（木）～令和 2 年 7 月 27 日（月）
実施目的	市民の日常の移動実態や公共交通全般に対するニーズを把握するため。
実施方法	郵送配布・郵送回収
対象者	市内在住の 3,000 世帯、1 世帯に 2 票ずつ配布 ※住民基本台帳より世代別、地区別抽出
アンケートの回収数	1,585 票（回収率 26.4%）
アンケートの世帯回収数	922 世帯（世帯回収率 30.7%）
ホームページ掲載分回収数	159 票
合計回収数	1,744 票

1.1. 集計内容

市民の日常の移動実態や公共交通全般に対するニーズを把握するため実施した、「かすみ がうら市公共交通に関する市民アンケート調査」の 1,744 票の回答を、公共交通を必要と している人について集計する。

1.2. 公共交通を必要としている人について

1.2.1. 自動車・バイクの運転免許の有無

自動車・バイクの運転免許がある人は 84% である。返納した人は 4%、ない人が 10% で あり、14% が運転免許を持っていない。

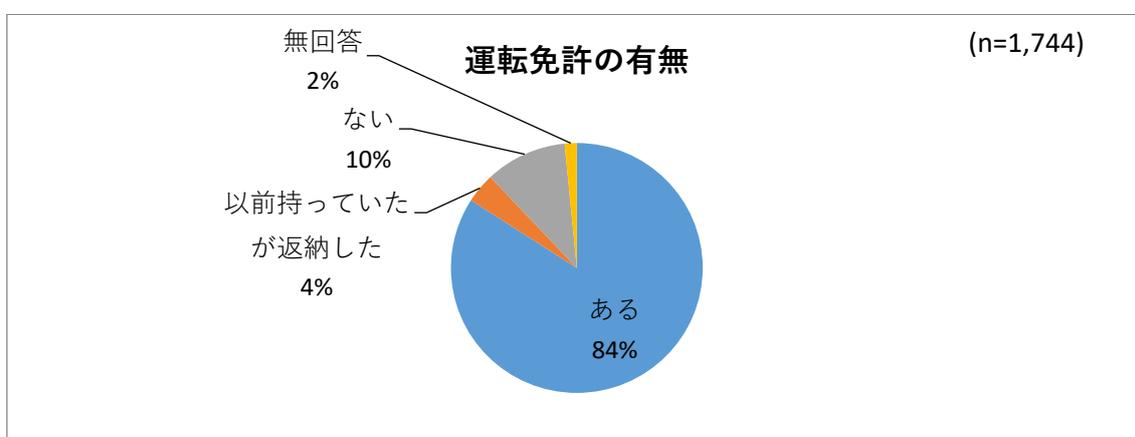


図 1.2.1 運転免許の有無

1.2.2. 自動車・バイクの運転状況

市民の自動車・バイクの運転状況は、不安なく運転している人が 72%、不安に思いなが ら運転している人が 10%、運転しない人が 14% である。不安に思いながら運転している人 と運転しない人を合わせた 24% の人は、公共交通を必要としている可能性が高い。

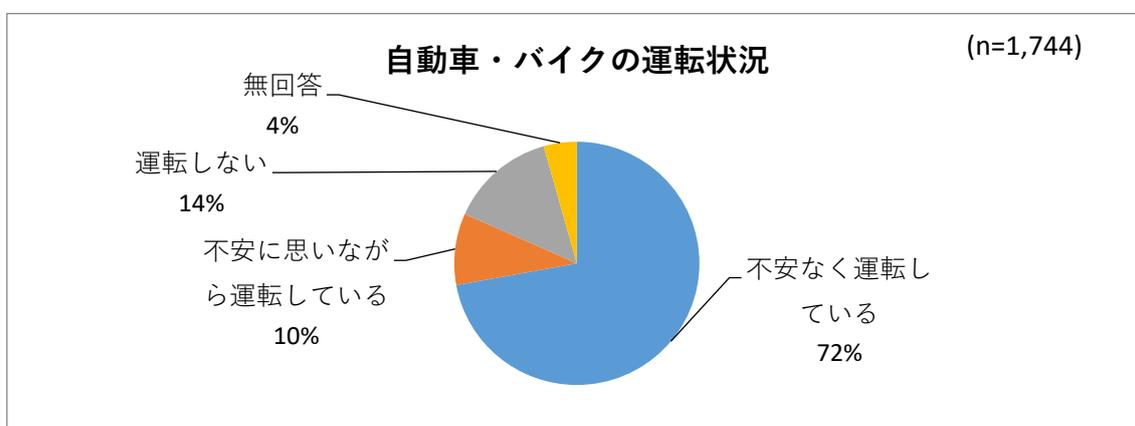


図 1.2.2 自動車・バイクの運転状況

1.2.3. 自動車・バイクの保有状況

80%が自分で自由に使える自動車又はバイクを保有している一方、保有していない人が16%いる。自動車やバイクを保有していない16%の人は公共交通を必要としている可能性が高い。

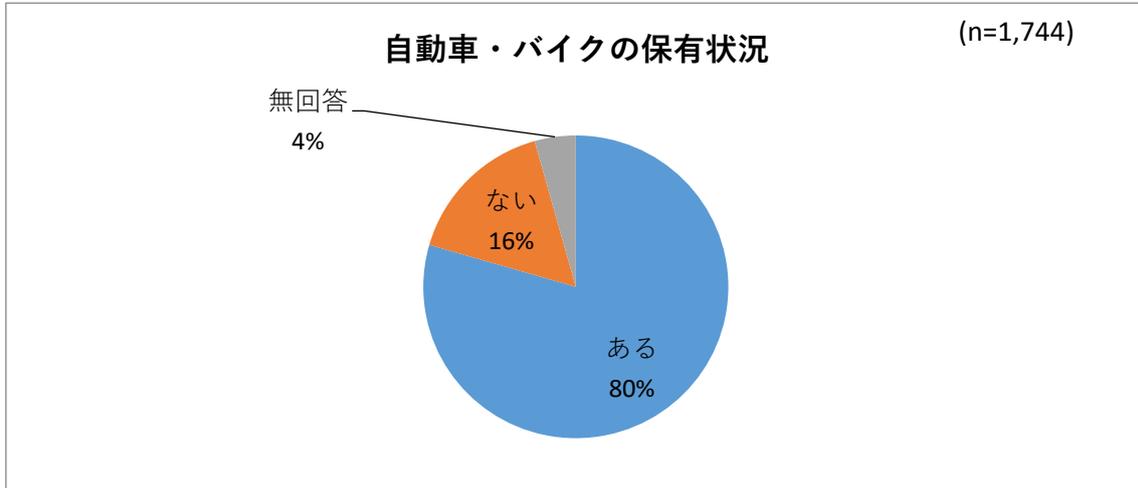


図 1.2.3 自動車・バイクの保有状況

1.2.4. 将来、高齢者になったときの移動の不安

将来、高齢者になったとき、日常生活の移動について不安を感じている人が68%である。将来に向けて、市民の日常生活の移動手段の確保に取り組むことが求められている。

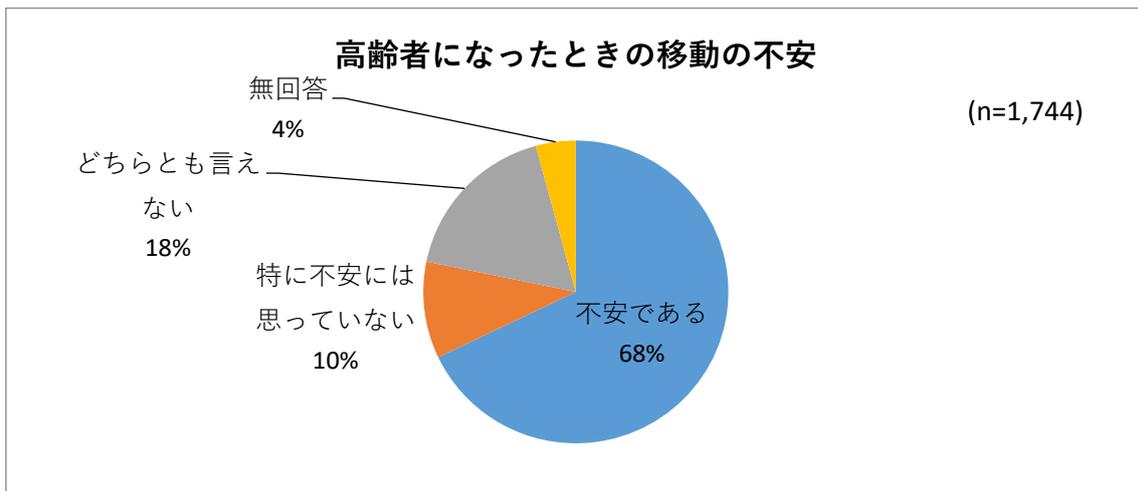


図 1.2.4 高齢者になったときの移動の不安

1.3. 運転免許を保有していない人の特性

1.3.1. 運転免許の有無×通勤・通学の交通手段

通勤・通学の交通手段について、運転免許のある人は、自分で運転する自家用車が87%である。運転免許を以前持っていたが返納した人は、家族等の送迎による自動車が89%と最も多く、自転車と徒歩が44%である。運転免許のない人は、家族等の送迎による自動車が61%と最も多く、自転車が51%、徒歩が28%である。

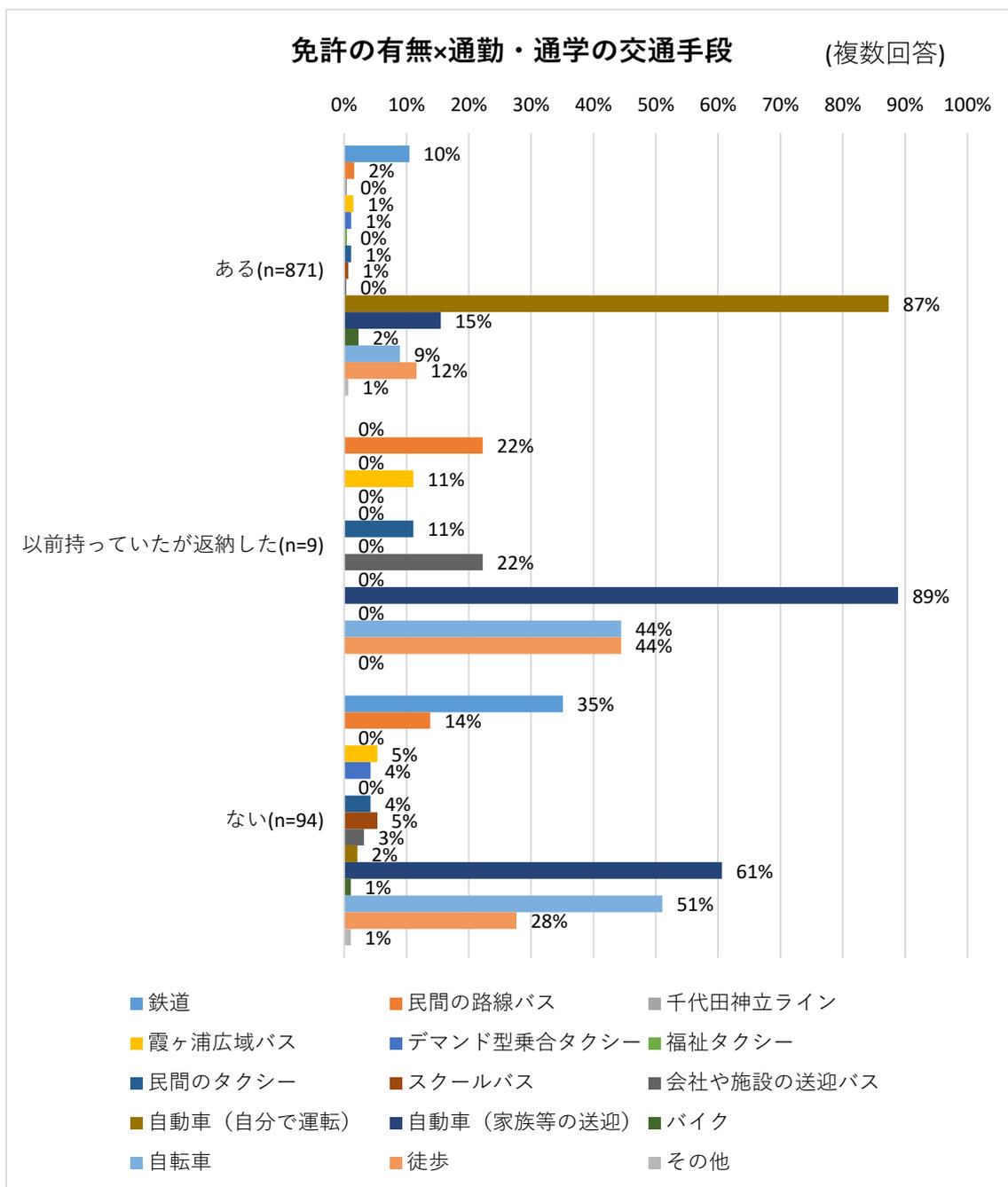


図 1.3.1 運転状況×通勤・通学の交通手段

1.3.2. 運転免許の有無×買物の交通手段

買物の交通手段について、運転免許のある人は、自分で運転する自家用車が87%である。運転免許を以前持っていたが返納した人は、家族等の送迎による自動車が89%と最も多く、自転車と徒歩が44%である。運転免許のない人は、家族等の送迎による自動車が58%と最も多く、自転車が49%、徒歩が27%である。

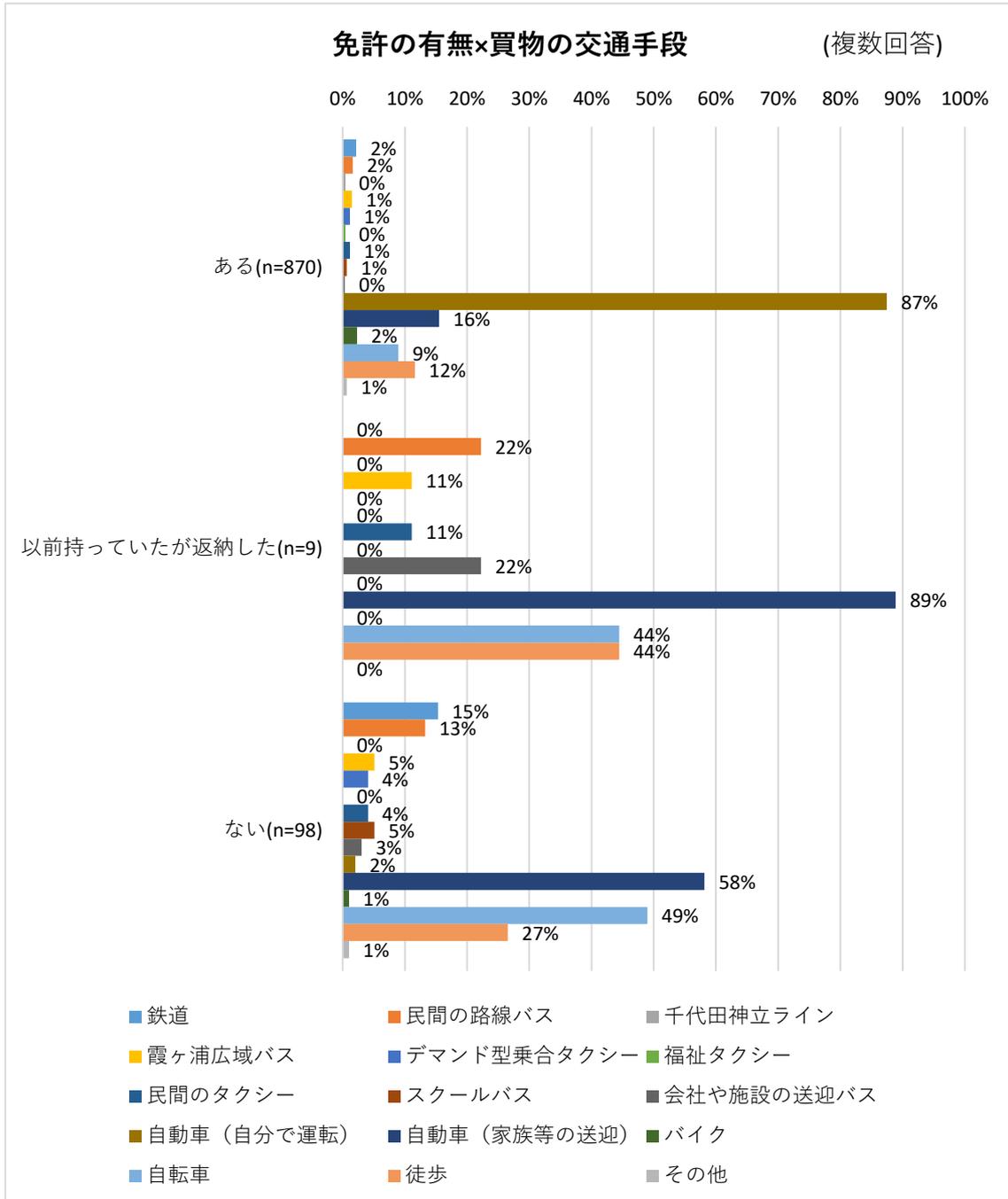


図 1.3.2 運転状況×買物の交通手段

1.3.3. 運転免許の有無×通院の交通手段

通院の交通手段について、運転免許のある人は、自分で運転する自家用車が88%である。運転免許を以前持っていたが返納した人は、家族等の送迎による自動車が82%と最も多い。運転免許のない人は、家族等の送迎による自動車が70%と最も多く、自転車が22%である。

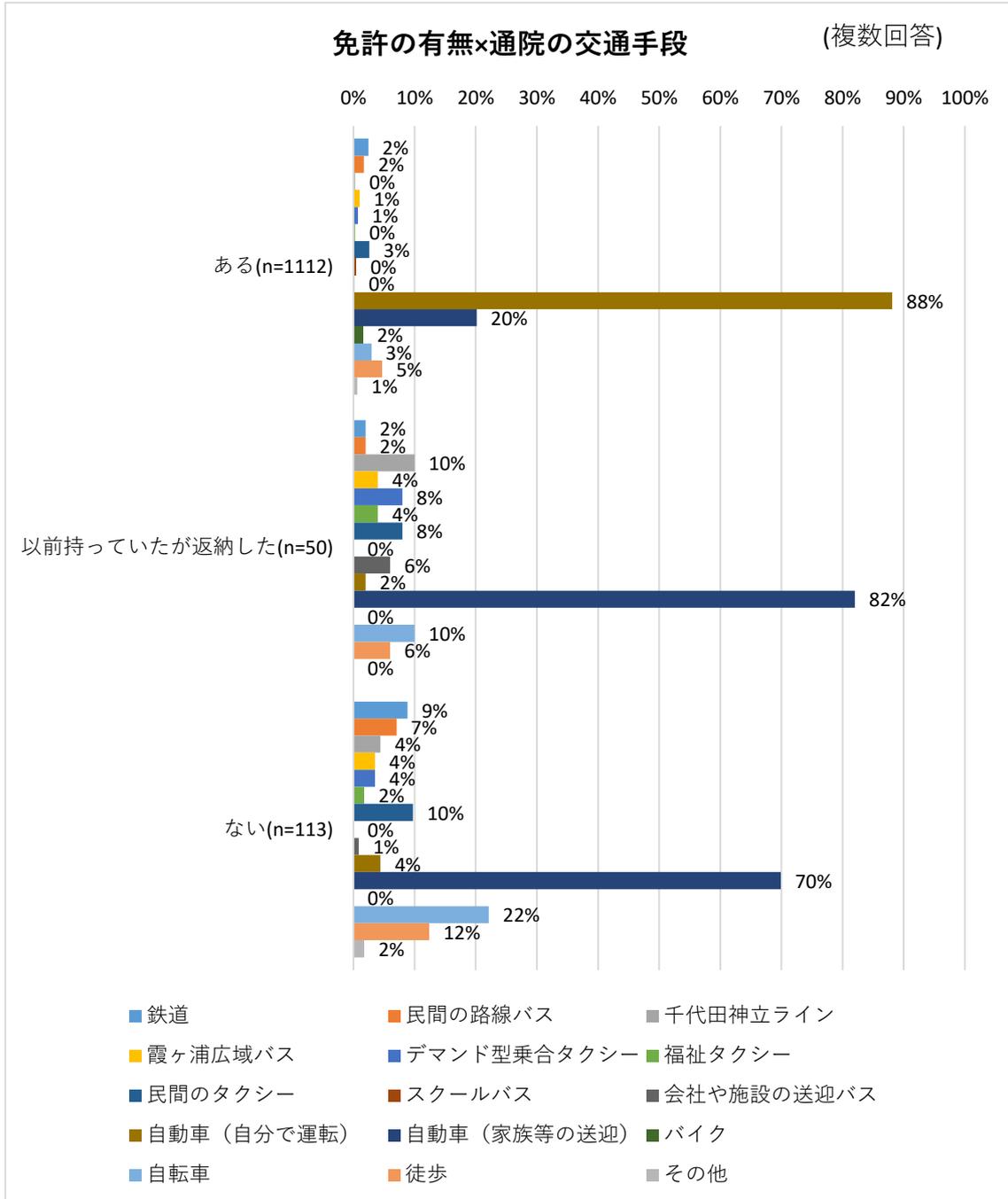


図 1.3.3 運転状況×通院の外出の交通手段

1.3.4. 運転免許の有無×その他の外出の交通手段

その他の外出の交通手段について、運転免許のある人は、自分で運転する自家用車が88%である。運転免許を以前持っていたが返納した人は、家族等の送迎による自動車が56%と最も多く、自転車が22%である。運転免許のない人は、家族等の送迎による自動車が60%と最も多く、鉄道が32%、徒歩が31%である。

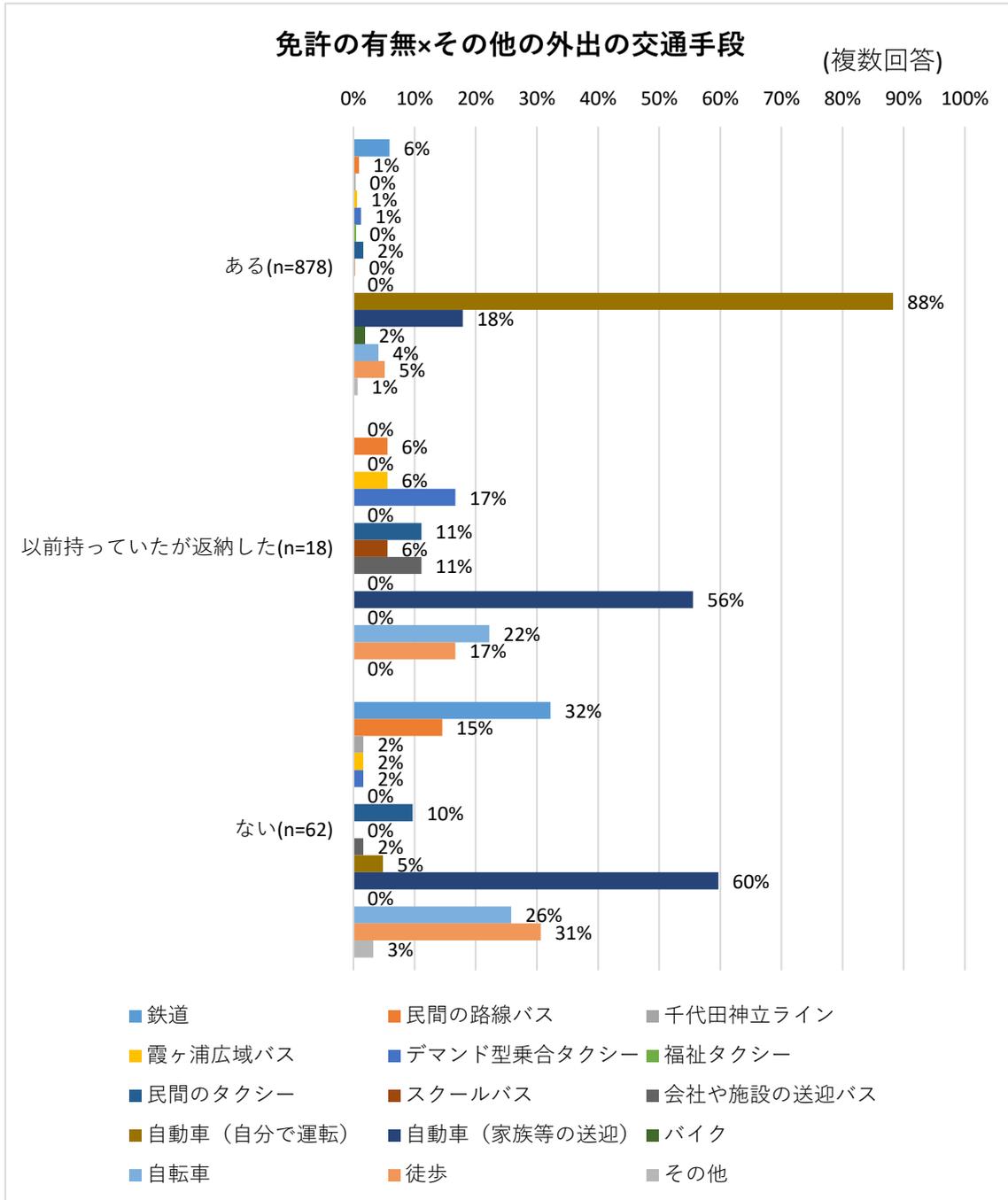


図 1.3.4 運転状況×その他の外出の交通手段

1.3.5. 運転免許の有無×千代田神立ラインの認知度

千代田神立ラインの認知度は、運転免許のある人が44%、運転免許を返納した人が55%、運転免許のない人が42%である。

千代田神立ラインを利用している人の割合は、運転免許のある人が2%、運転免許を返納した人が4%、運転免許のない人が5%である。

運転免許がある人に比べ、運転免許を保有していない人の方が千代田神立ラインを利用している。

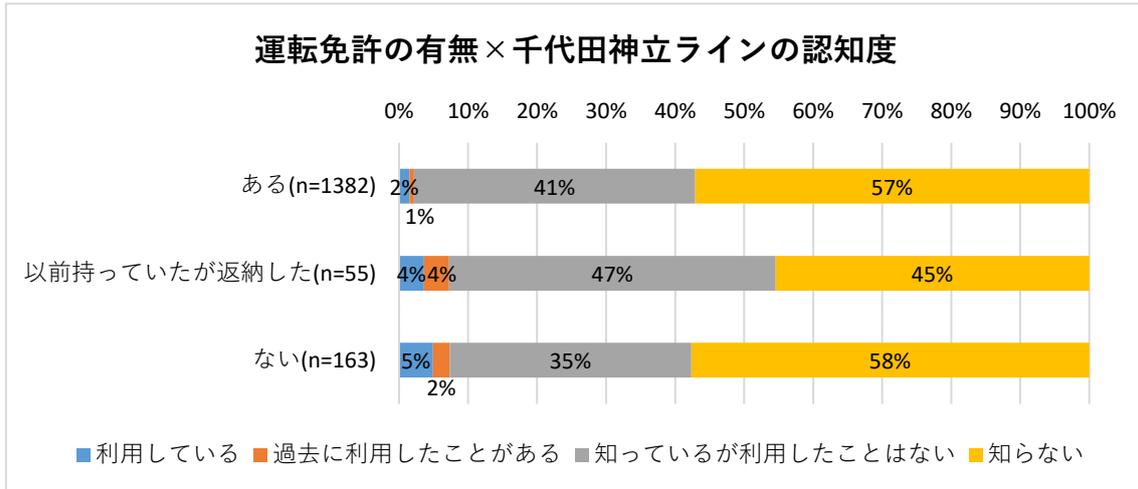


図 1.3.5 運転免許の有無×千代田神立ラインの認知度

1.3.6. 運転免許の有無×霞ヶ浦広域バスの認知度

霞ヶ浦広域バスの認知度は、運転免許のある人が47%、運転免許を返納した人が64%、運転免許のない人が39%である。

千代田神立ラインを利用している人の割合は、運転免許のある人が1%、運転免許を返納した人が7%、運転免許のない人が6%である。

運転免許がある人に比べ、運転免許を保有していない人の方が千代田神立ラインを利用している。

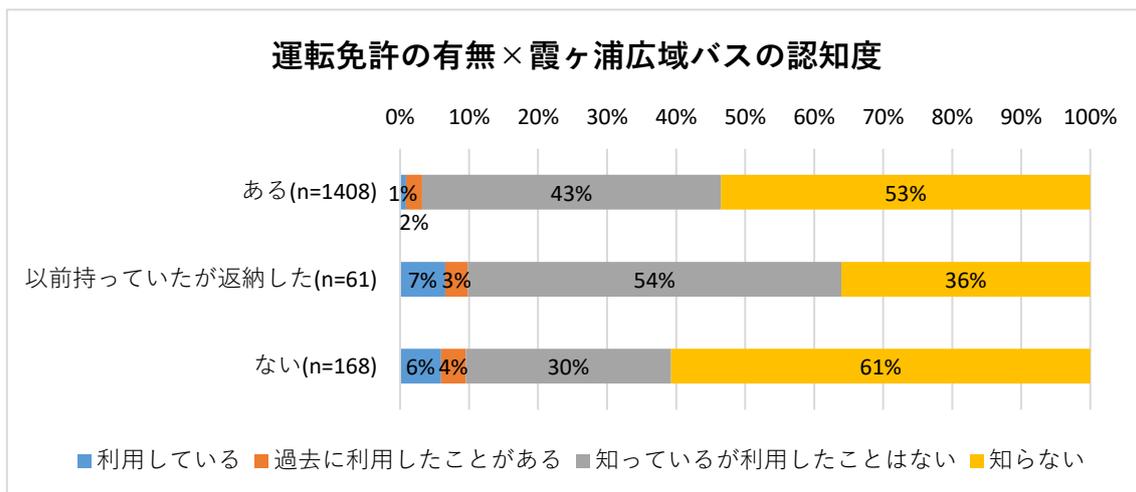


図 1.3.6 運転免許の有無×霞ヶ浦広域バスの認知度

1.3.7. 運転免許の有無×デマンド型乗合タクシーの認知度

デマンド型乗合タクシーの認知度は、運転免許のある人が43%、運転免許を返納した人が60%、運転免許のない人が36%である。

デマンド型乗合タクシーを利用している人の割合は、運転免許のある人が1%、運転免許を返納した人が10%、運転免許のない人が6%である。

運転免許がある人に比べ、運転免許を保有していない人の方が、デマンド型乗合タクシーを利用している。運転免許のない人のデマンド型乗合タクシーの認知度が低い。

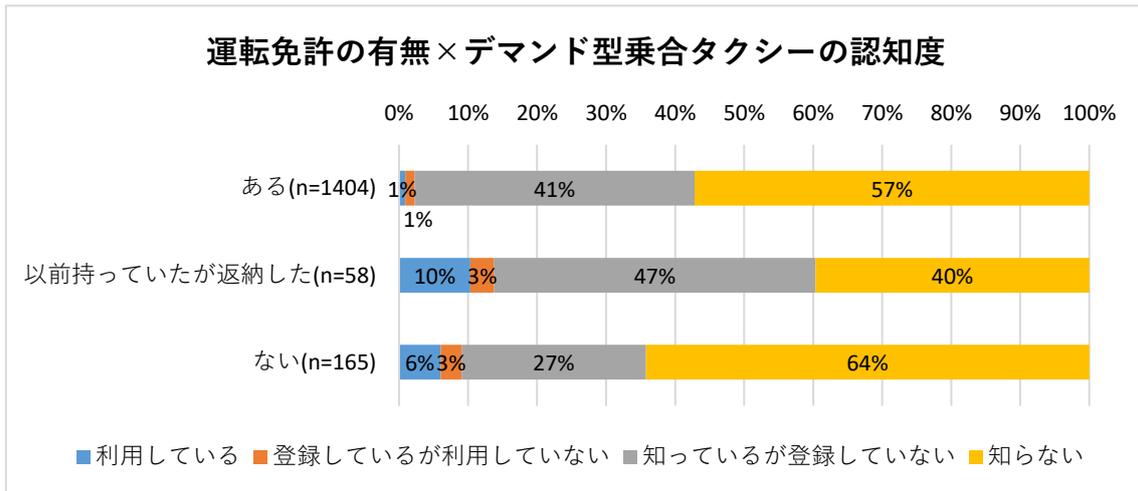


図 1.3.7 運転免許の有無×デマンド型乗合タクシーの認知度

1.3.8. 年齢×便利になってほしい交通手段

年齢別に見た便利になってほしい交通手段は、10歳代から20歳代は鉄道、30歳代から50歳代は路線バス、60～64歳は路線バスと乗合タクシー、65歳以上は乗合タクシーが最も多い。

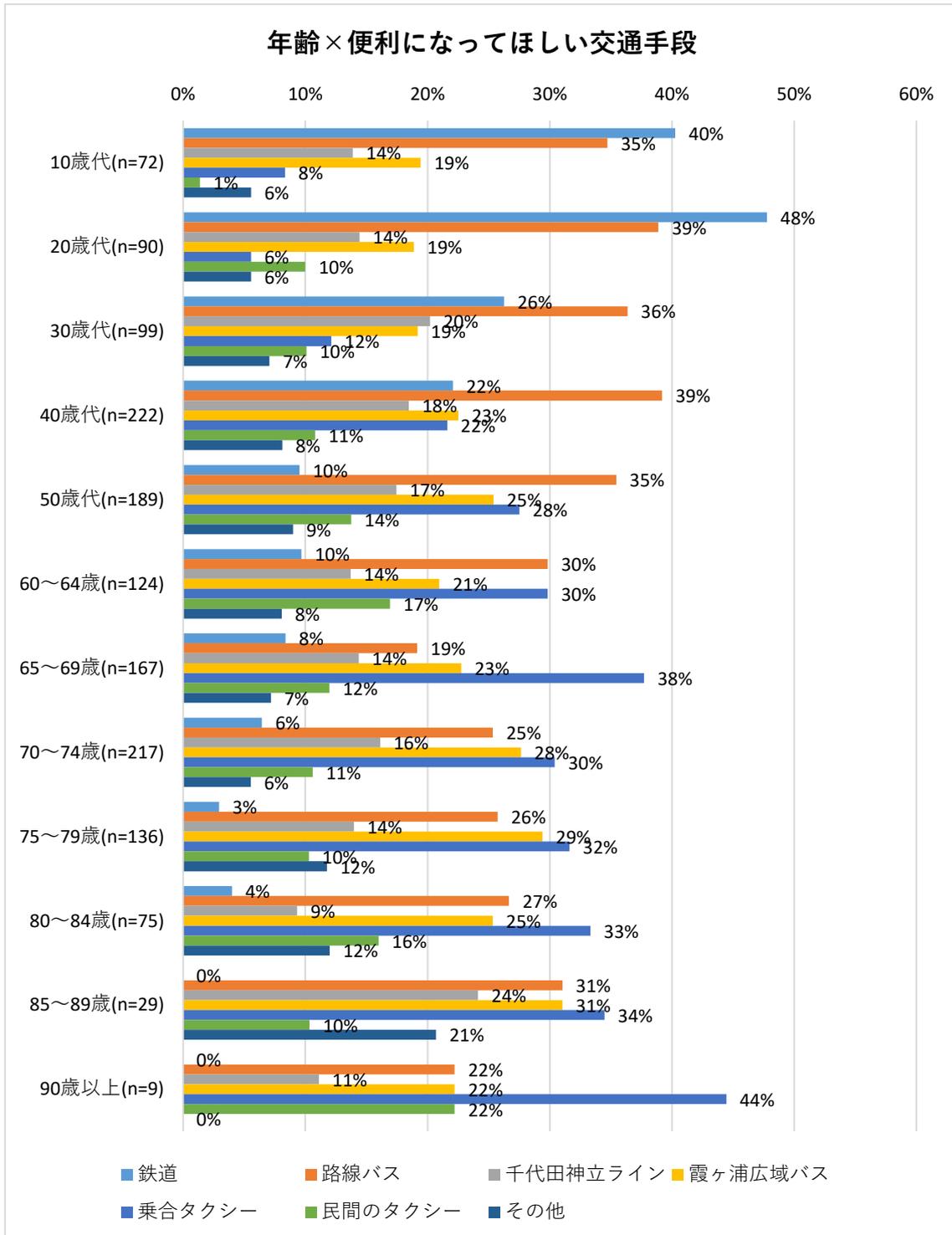


図 1.3.8 年齢×便利になってほしい交通手段

1.3.9. 居住地×便利になってほしい交通手段

居住地別に見た便利になってほしい交通手段は、霞ヶ浦地区では霞ヶ浦広域バスが最も多い。千代田地区の、「上土田、下土田、市川、飯田、東野寺、西野寺」エリアと「上志筑、中志筑、下志筑、五反田、横堀、大峰、栗田、高倉」エリアでは乗合タクシー、その他のエリアでは路線バスが最も多い。

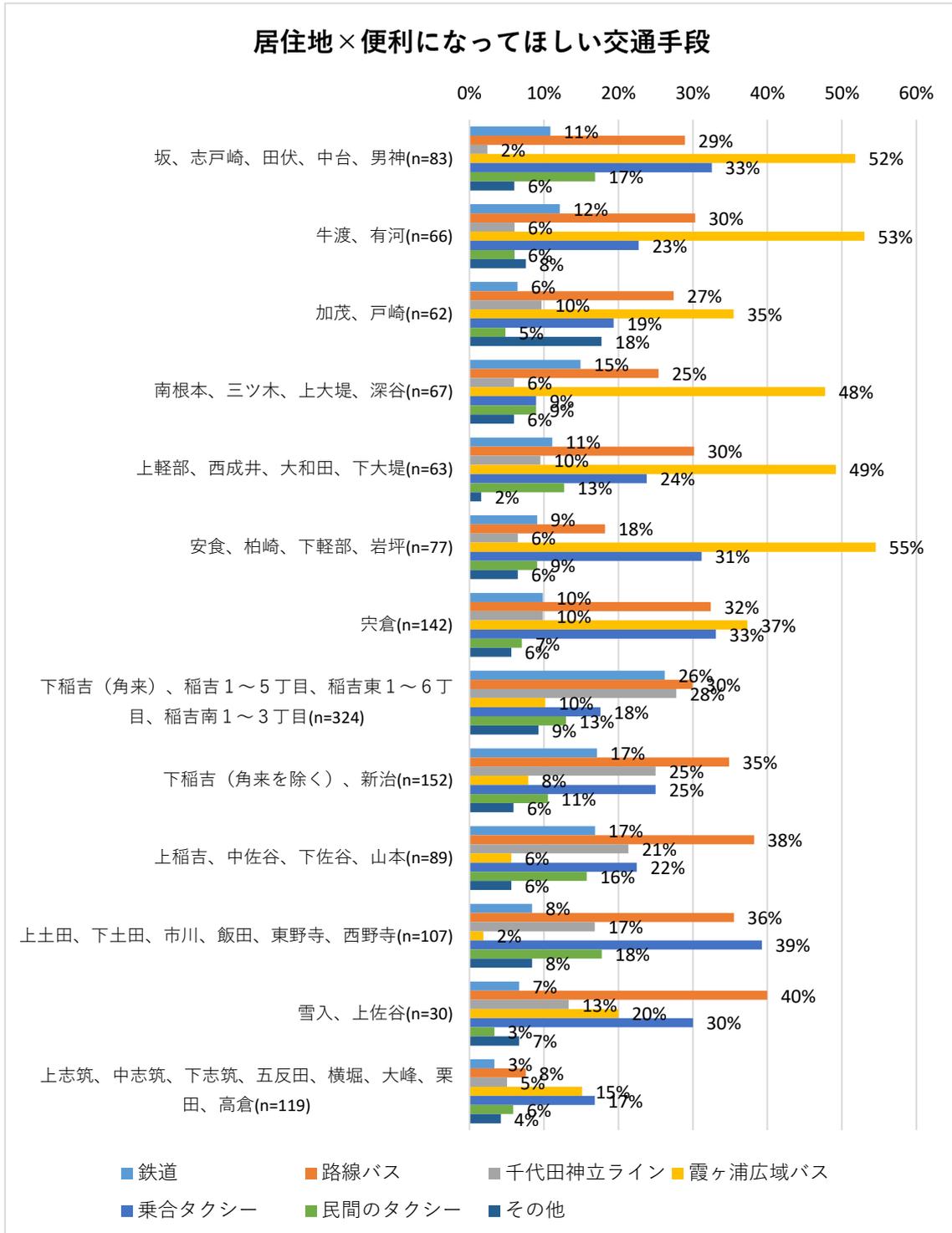


図 1.3.9 居住地×便利になってほしい交通手段

1.3.10. 運転免許の有無×便利になってほしい交通手段

運転免許を返納した人が特に便利になってほしいと考えている交通手段は、デマンド型乗合タクシーが35%で最も多く、次に霞ヶ浦広域バスが25%で多い。

運転免許のない人が特に便利になってほしいと考えている交通手段は、路線バスが35%で最も多く、次に鉄道と霞ヶ浦広域バスがそれぞれ24%で多い。

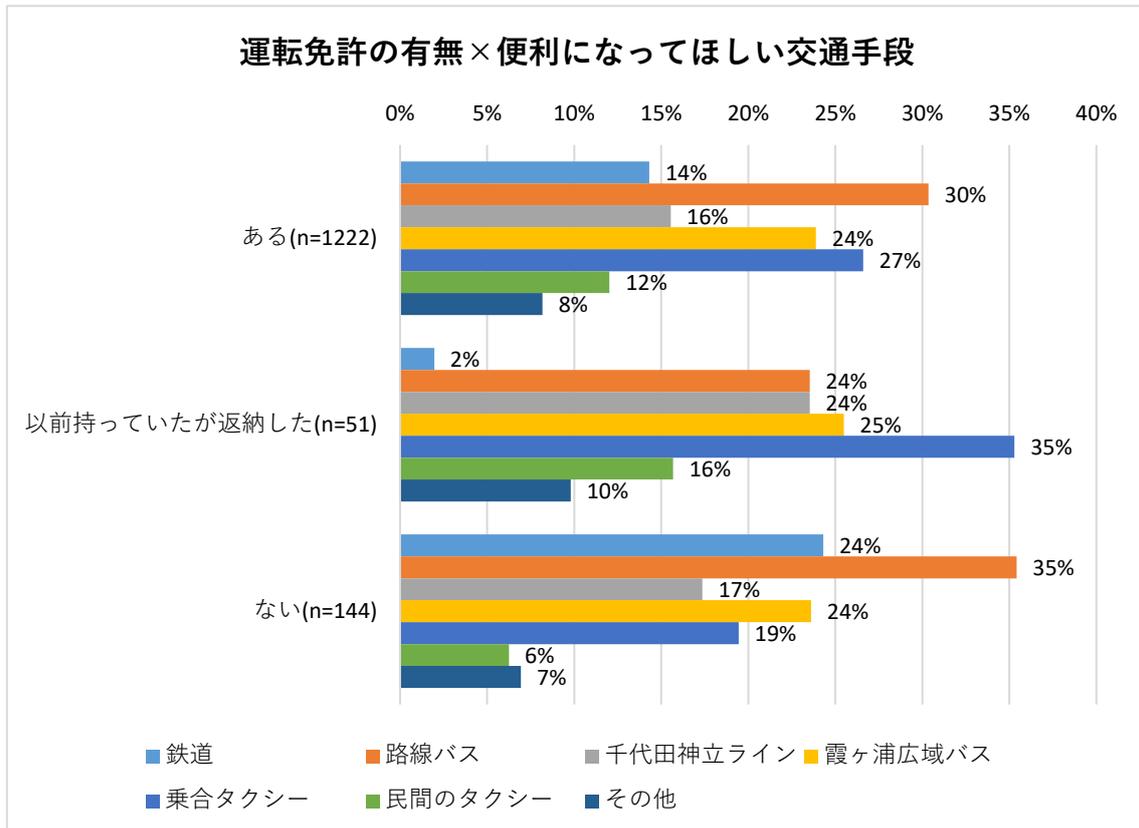


図 1.3.10 運転免許の有無×便利になってほしい交通手段

1.4. 高齢者になったときの移動に不安がある人の特性

1.4.1. 高齢になったときの移動の不安×千代田神立ラインの認知度

千代田神立ラインの認知度は、高齢者になったときの移動に不安がある人が46%、不安には思っていない人が39%、どちらも言えない人が37%である。

千代田神立ラインを利用している人の割合は、高齢者になったときの移動に不安がある人が2%、不安には思っていない人が1%、どちらも言えない人が1%である。

高齢者になったときの移動に不安がない人より不安がある人の方が、千代田神立ラインの認知度も利用率も高い。

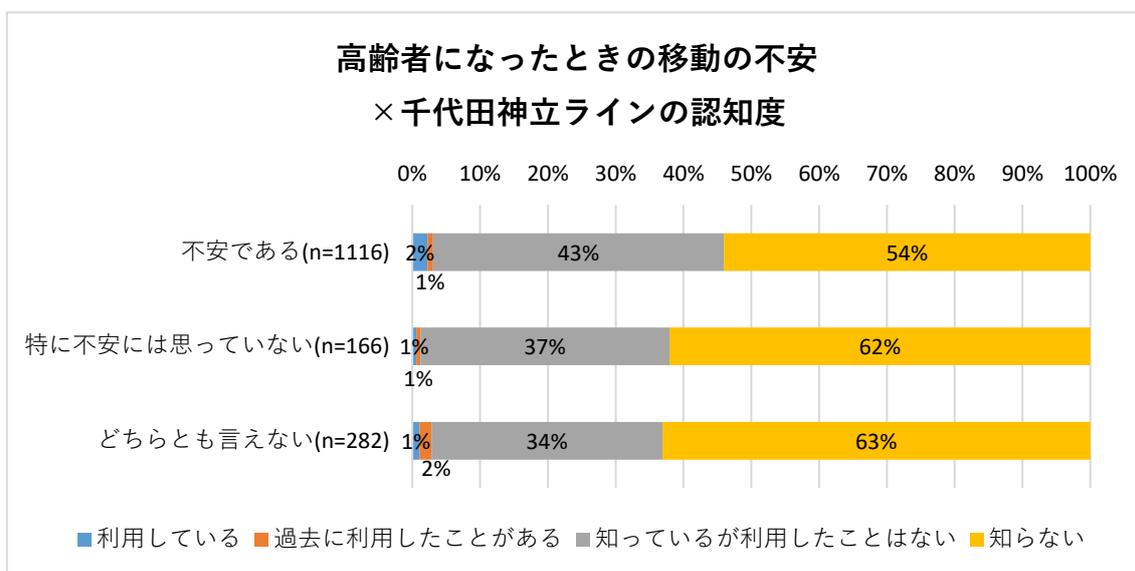


図 1.4.1 高齢者になったときの移動の不安×千代田神立ラインの認知度

1.4.2. 高齢になったときの移動の不安×霞ヶ浦広域バスの認知度

霞ヶ浦広域バスの認知度は、高齢者になったときの移動に不安がある人が50%、不安には思っていない人が41%、どちらも言えない人が36%である。

霞ヶ浦広域バスを利用している人の割合は、高齢者になったときの移動に不安がある人が2%、不安には思っていない人が0%、どちらも言えない人が1%である。

高齢者になったときの移動に不安がない人より不安がある人の方が、霞ヶ浦広域バスの認知度も利用率も高い。

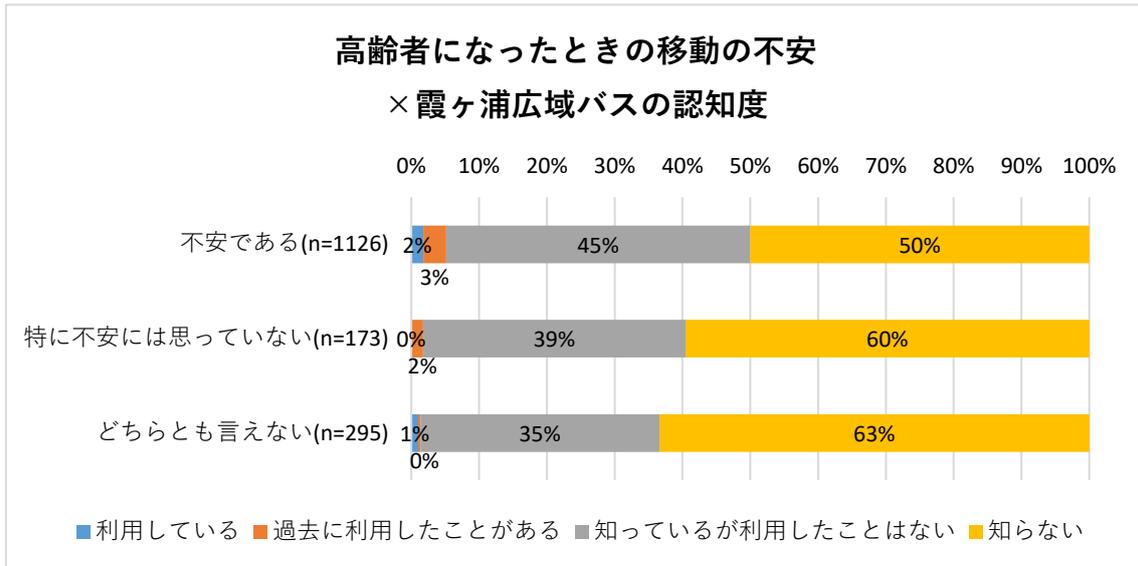


図 1.4.2 高齢者になったときの移動の不安×霞ヶ浦広域バスの認知度

1.4.3. 高齢者になったときの移動の不安×デマンド型乗合タクシーの認知度

デマンド型乗合タクシーの認知度は、高齢者になったときの移動に不安がある人が46%、不安には思っていない人が41%、どちらとも言えない人が31%である。

デマンド型乗合タクシーを利用している人の割合は、高齢者になったときの移動に不安がある人が2%、不安には思っていない人が1%、どちらとも言えない人が0.3%である。

高齢者になったときの移動に不安がない人より不安がある人の方が、デマンド型乗合タクシーの認知度も利用率も高い。

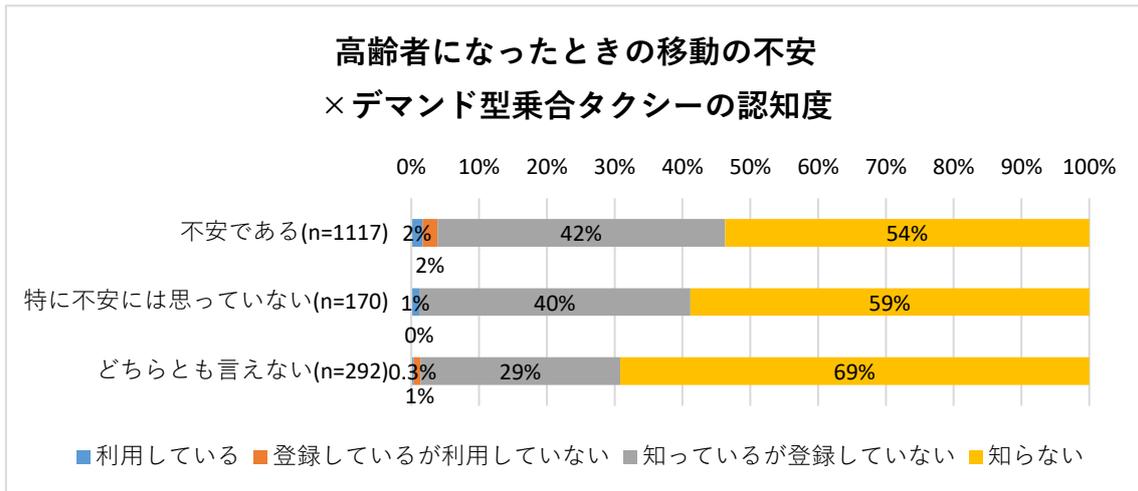


図 1.4.3 高齢者になったときの移動の不安×デマンド型乗合タクシーの認知度

1.4.4. 高齢者になったときの移動の不安×便利になってほしい交通手段

高齢者になったときの移動に不安がある人が特に便利になってほしいと考えている交通手段は、路線バスが32%で最も多く、デマンド型乗合タクシーが28%で次に多く、霞ヶ浦広域バスが26%である。

高齢者になったときの移動に不安がない人、どちらとも言えない人が特に便利になってほしいと考えている交通手段は、路線バスが最も多く、次に鉄道が多い。

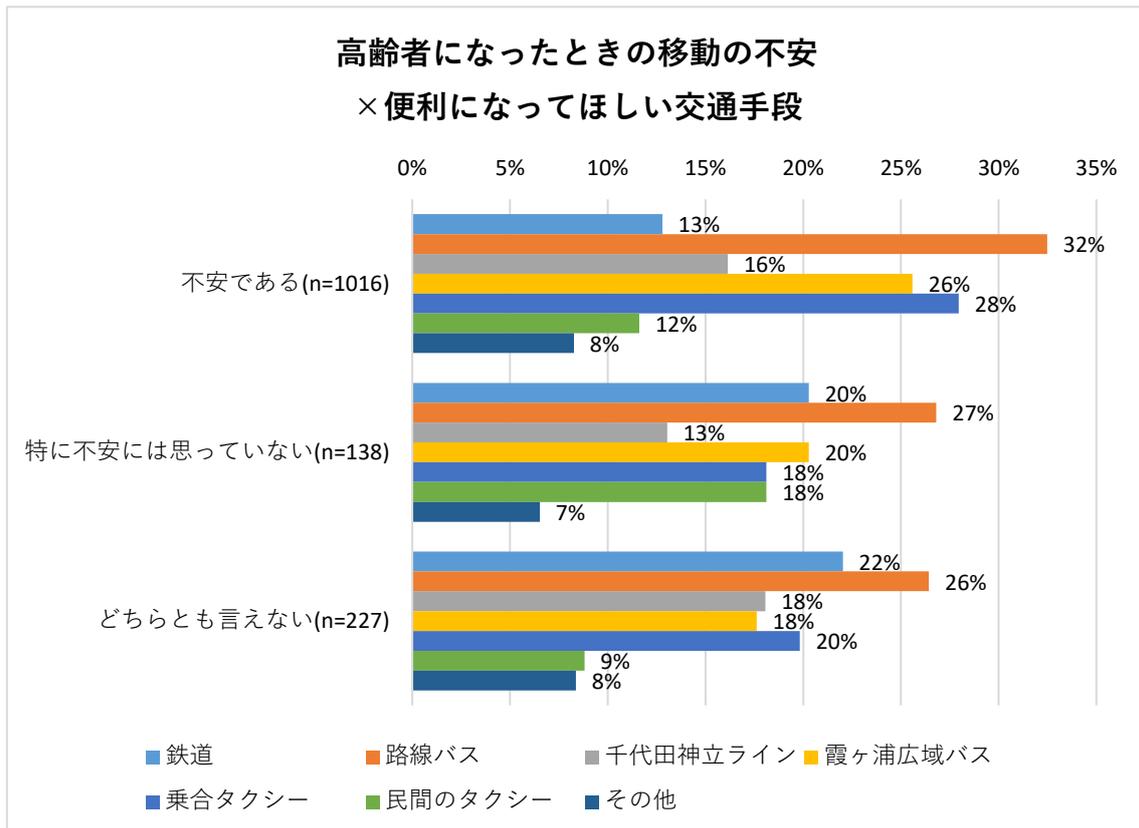


図 1.4.4 高齢者になったときの移動の不安×便利になってほしい交通手段